

機関番号：36301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2009～2010

課題番号：21830159

研究課題名（和文）14世紀リヨンの毛織物業者の会計研究
－フランス最古の会計帳簿の分析－研究課題名（英文）Analysis of an Account Book of a Cloth Manufacturer in Lyon
(1320-1324)研究代表者 三光寺 由実子 (SANKOJI YUMIKO)
松山大学・経営学部・講師

研究者番号：60549301

研究成果の概要（和文）：

本研究は、フランスの商人が記した最古の会計帳簿であるリヨンの毛織物業者の会計帳簿の断片（1320—1324）を解説し、分析することで、簿記書が出版される以前に記された、当該帳簿において簿記・会計に関する知識がどのようなものであったかを明らかにしようとするものである。考察の結果、当該帳簿は、概ね記録者 *Johanym Berguen* の債権に関する記録で、一部 *Johanym Berguen* の債務も含まれることが明らかになった。とくに、会計史の観点から着目に値する事項として、債権および債務の発生に関し、いずれも動詞「devoir」により示し、主体を変化させて表していたことが挙げられた。

研究成果の概要（英文）：

This research document and analyze certain rare merchant account books, an Account Book of a Cloth Manufacturer in Lyon(1320-1324). This fragment is a record of *Johanym Berguen*'s debt and implies that the recorder of this transaction was *Johanym Berguen* himself and that he cooperated with *Bernerz Barauz* in the course of conducting business affairs.

When *Johanym Berguen* recorded both debits and credits, he made full use of *deyt* (the first or third person singular of “devoir” in present-day French, that is, “have to”), replacing it with the subject. The undeniable conclusion is that the above-mentioned French merchants expressed their debit entries with a high degree of subjectivity.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	860,000	258,000	1,118,000
2010年度	780,000	234,000	1,014,000
年度			
年度			
年度			
総計			

研究分野：会計，会計史

科研費の分科・細目：会計学

キーワード：中世フランス，リヨン，会計史，債権債務記録

1. 研究開始当初の背景

既存の会計史研究では、複式簿記の起源を中世末期に求めようとする中世イタリア起源説がもっとも支配的な見解であることから、中世イタリア会計史研究が多かった。一方で、現存する史料に質・量共に制約があり、分析が困難であること等を理由に、中世フランス会計史研究において中世フランスの会計帳簿を詳細に渡り検討することがあまりなされてこなかった。

2. 研究の目的

フランスの商人が記した最古の会計帳簿であるリヨンの毛織物業者の会計帳簿の断片（1320—1324）を研究対象として、簿記書が出版される以前にどのような簿記・会計の知識が持たれていたのかを明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

とりわけ研究期間内では当該会計帳簿の帳簿組織と記帳システムを明確にすることを予定とし、その前段階として、「1. 記帳内容の把握」に努める必要があった。その上で、「2. 帳簿組織の検討」、「3. 記帳システムの検討」を行った。研究実施の初年度である平成21年度には「1. 記帳内容の把握」及び「2. 帳簿組織の検討」を中心課題として取り組んだが、これらを具体的な研究実施の手順として表すと以下のような3ステップになった。

まず本研究を行う上での、第1ステップとなるのが一次史料の解読であった。具体的には平成21年年3月にフランスのヴィエンヌにて撮影した現物とそれを活字に直したDurdilly[1965]を読み解き、記帳内容を把握する必要があった。この際に、一次史料から得られた情報の正確性を検討、すなわち史料批判を行った。そして場合によっては誤記を

修正、あるいは情報の加工修正を施した。その際にはフランス史、とりわけフランスの中世フランス研究史家の間で定評のあるGodefroy[1961]等の、中世フランス語の大辞典を用いて記述内容の確認を行った。

本研究の第2ステップでは、会計帳簿の記録からリヨンの毛織物業者の経営活動のプロセスと取引相手との関係性を立体的に可視化した。これまでの研究、三光寺[2008]では、Lopez[1976]のような中世経済史上の史実と、当該会計帳簿の記述とを考察した結果、研究対象であるリヨンの毛織物業者はフランドル地方の織物を中心に、サン・ドニの定期市等で購入し、それを自らの仕事場で製品とし、販売していた可能性を見出した。しかし、当該会計帳簿でしばしば見られる、提携(*li compagny*: association)については、三光寺[2008]で扱った史料の乏しさと、中世経済史でもあまり取扱われていない論点であるがゆえに、リヨンの毛織物業者がいかなる提携を、経営活動を営む上で行ったのかについては明確にはできなかった。本研究では、これまでの研究の限界を踏まえた上で、会計帳簿の分析を行う前提として、当該帳簿から読み取れるリヨンの毛織物業者の経営活動、取引相手との関係性、特に提携関係を明らかにした。

平成22年度には、本研究の第3ステップとして、会計帳簿の分析に入った。三光寺[2008]では現存する帳簿上で、別の帳簿を表す *quert*, *paper vermeil* 等の記述が確認でき、リヨンの毛織物業者は複数の帳簿を用いていたことが考えられた。しかし、これらそれぞれがどのような取引事項・ないし顧客名を記載するための帳簿であったのかは、不明慮であったため、第2ステップまでで把握した会計帳簿の記録内容に基づいて、各帳簿名

が確認できる記述を整理し、その中で帳簿毎に共通して見られる商品名や、商品の産地、顧客名等から各帳簿の特徴と役割を検討した。

4. 研究成果

考察の結果、当該帳簿は、概ね記録者 Johanym Berguen の債権に関する記録で、一部 Johanym Berguen の債務も含まれることが明らかになった。また、債務のみの記録、左欄の勘定で債権の発生・右欄の勘定でその回収を表している記録等、多種多様な記帳方法が駆使されているのが、当該帳簿の特徴であった。さらに現存しない帳簿、皮革で覆われた帳簿、および表紙が赤い帳簿の存在が確認できた。ただし、皮革で覆われた帳簿と表紙が赤い帳簿も債権ないし債務を記録したものと考えられた。以下は、各々の紙片について Durdilly[1965]の記載順に「紙片 A」、「紙片 B」のように称したものの、具体的な分析結果のである。

(1) 紙片 A は、全て記録者 Johanym Berguen の債務記録である。そしていずれも記録者を主語にして記帳している。また紙片 A のみ、金額欄を設定している。なお、紙片 A では左右の欄で、記録の関係性はない。

(2) 紙片 B・C の記録は、債権記録であり、いずれも取引相手を主語にして、すなわち債権を、取引の相手方から見た債務に置き換えた上で、記録を行っている。また現存していない帳簿「皮革で覆われた帳簿」および「表紙が赤い帳簿」の存在が確認できる。特に皮革で覆われた帳簿に関しては、紙片 B・C の左欄にある全ての勘定記録にて見出せる。それゆえ、

左欄に書かれた債権に関しては、皮革で覆われた帳簿にも記録されていると考えられる。一方、表紙が赤い帳簿は、一ヶ所ではしか言及されていない。この一ヶ所からは、右欄を経て算出された債権の未回収分が、表紙が赤い帳簿にも記載されていると考えられる。

(3) 紙片 E・F・G も、概ね紙片 B・C と同様に債権記録である。しかし紙片 B・C と異なり、欄をまたぐことはなく、同じ欄内で債権額とその回収額が書かれている。また紙片 B・C と同様に、取引相手を主語とした記帳がなされている。皮革で覆われた帳簿と表紙が赤い帳簿という別の帳簿の名前も、紙片 B・C と比較し少ないものの確認することができる。

【図表 5—⑬ 帳簿断片のページ別特徴】

	紙片 A	紙片 B・C	紙片 E・F・G
記録内容	債務	債権	債権 (一部債務)
記帳形式	金額欄あり	左欄で発生・右欄でその回収	欄をまたがず発生・回収を表示
記帳構文	記録者 + 返済すべし	取引相手 + 返済すべし	取引相手 + 返済すべし
別の帳簿	—	皮革, 赤色	皮革, 赤色

(筆者作成)

特に、会計史の観点からは、同じ帳簿内の債権債務記録にして、ページにより、記録者を主語とするものと、取引相手を主語にして記載するものがあるという発見があった。人名勘定に関するイタリア最古の現存史料といわれる、フィレンツェの一銀行家の帳簿断片(1211)において、債権債務の記録は、取引相手を主語にしていることが確認できることから、それに類似した記帳形式が当該帳簿内で見出せる点は極めて興味深いものであった。その一方で、フィレンツェの帳簿においては、債権を「返済すべし(与えるべし)」、債務を「受取るべし」に該当する動詞を用いて示していたのに対し、研究対象たるリヨンの帳簿では、全記録を「devoir(～すべし, 返済すべし)」を駆使して表していたことは、当該帳簿での特記事項といえた。

リヨンの会計帳簿と、多くの同時期イタリアの会計帳簿との間に、なぜこのような勘定記録の記述の相違が生じているのか。そして、勘定生成の背景としてしばしば登場する、商人や銀行家による勘定記録は、公証人の記録方法の模倣にはじまるがゆえ、客観的な三人

称表現で記帳されるという説明に対し、リヨンの会計帳簿の記帳方法が示唆するものは何か。これらの課題を中心に、今後、研究を深化させていく所存である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

三光寺由実子、14 世紀リヨンの毛織物業者の会計帳簿に関する追窮—1964 年発見分の史料観察—、松山大学論集、査読無、第 21 巻、2010、309-433

〔学会発表〕(計 1 件)

三光寺由実子、14 世紀リヨンの毛織物業者の会計帳簿の分析、日本簿記学会第 26 回全国大会、2010 年 8 月 29 日、京都産業大学

〔図書〕(計 1 件)

三光寺由実子、フランス会計史—13—14 世紀会計帳簿の実証的研究—、同文館出版、2011 年近刊。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三光寺 由実子 (SANKOJI YUMIKO)

松山大学・経営学部・講師

研究者番号：60549301